

目 次

令和 7年12月12日（金曜日）第2号

○招集年月日 -----	1 頁
○招集の場所 -----	1 頁
○開 議 日 時 -----	1 頁
○応 招 議 員 -----	1 頁
○不応招議員 -----	1 頁
○出 席 議 員 -----	1 頁
○欠 席 議 員 -----	1 頁
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 -----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名 -----	1 頁
○議 事 日 程 -----	2 頁
○開 議 宣 告 -----	3 頁
○諸般の報告 -----	3 頁
○一 般 質 問 高橋議員 ----- ・町内の空き家への対応について 大谷議員 ----- ・避難所の暑さ対策は 辻議員 ----- ・長万部高校の存廃に関する現状と行政の対応について	6 頁 8 頁
○発議第1号 國土強靱化に資する社会资本整備等に関する意見書 -----	11 頁
○所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について -----	12 頁
○閉 会 宣 言 -----	12 頁

令和7年第4回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 令和 7年12月12日（金）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開議日時 令和 7年12月12日（金） 午前10時00分

◎応 招 議 員（9名）

1番	高 森 功 治
2番 橋 本 收 司	7番 長 崎 厚
3番 辻 紀 樹	8番 高 橋 克 英
4番 大 谷 敏 弥	9番 村 川 育
5番 北 川 佳 嗣	10番 柏 倉 恵里子

◎不応招議員 なし

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木幡 正志	水道ガス課長	田 中 俊 和
副 町 長	佐藤 英代	水道ガス課参事	廣 田 栄
総務課長	佐藤 久	出納室長	工 藤 貴 司
危機対策室長	吉田 泰博	消防長	沼 田 明 宏
まちづくり推進課長	小山内 敏洋	病院事務長	橋 本 啓 一
新幹線推進課長	岸上 尚生	病院参事	加 藤 典 明
税務課長	小川 洋	教育長	近 藤 英 隆
町民課長	増田 理恵	学校教育課長	神 野 隆 之
保健福祉課長	田野 憲哉	選挙管理委員会事務局書記長	佐 藤 久
産業振興課長	田中 浩	監査事務局長	佐々木 学
建設課長	上野 訓	農業委員会事務局長	田 中 浩

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐々木 学
議会事務局主査	本前武広
議事係	川村界斗

◎議事日程

- 日程第1 一般質問
日程第2 発議第1号 国土強靭化に資する社会资本整備等に関する意見書
日程第3 所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について
-

◎開議宣告

10時00分 開会

○議長（柏倉恵里子） ただいまの出席議員は9名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎諸般の報告

○議長（柏倉恵里子） 諸般の報告を事務局長からいたします。

佐々木事務局長。

○議会事務局長（佐々木学） 諸般の報告をいたします。本日議題となります発議1件と、各常任委員長及び議会運営委員長から所管事務等の調査及び閉会中の継続調査の申し出がありましたのでお手元に配付いたしました。以上であります。

○議長（柏倉恵里子） 以上で諸般の報告を終わります。

◎一般質問

○議長（柏倉恵里子） 日程第1、一般質問を行います。質問通告書は事前に配付しておりますが、質問者は3名、質問件数は3件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と終了時にブザーを鳴らしますのであらかじめご承知ください。

それでは順次質問を許します。

高橋議員。

[議員（8番 高橋克英）登壇]

○議員（8番 高橋克英） 1問質問します。町内の空き家への対応について。

近年、町内に老朽化した空き家が放置され、倒壊の危険や犯罪の誘発など、周囲に悪影響を及ぼすことが危惧されています。これは少子・高齢化社会や核家族化に伴い、今後ますます深刻な社会問題になっていくのではないかと考えます。

行政は町民の生命と財産を守るとの観点からこのような状況を放置し、負の財産を将来に先送りしてはならないと考えます。そこで、次の点についてお聞きします。

1、町内に空き家等の建物は何軒あるか。

2、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基づいて、特定空き家等に該当する4つの要件のどれかを満たし、適正な手続きを踏み、行政代執行を行った事例はあるか。

3、空き家等の問題解決にあたり、所有者または相続人の理解等が得られない事例はあるか。

以上、町長の所見をお伺いします。

[議員（8番 高橋克英）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

[町長（木幡正志）登壇]

○町長（木幡正志） 町内の空き家等への対応について、答弁申し上げます。

ご質問のとおり、近年、少子高齢化の進行などにより全国規模で空き家等の問題が深刻化し社会問題のひとつとなっており、当町も例外ではありません。

町内に空き家等の建物は何軒あるか。につきましては、令和7年9月時点で空き家等と推定される建物は、499軒確認しております。

行政代執行を行った事例はあるか。につきましては、事例はございません。

問題解決にあたり理解が得られない事例はあるか。につきましては、適切な管理を要請しても、所有者に資力がない等、空き家等の修理や解体をすることができずに放置されている事例などがございます。

空き家等は個人の財産であり、所有者が適切に維持管理すべきものでありますが、現状では空き家等の老朽化が進行していても、先ほど申しましたとおり、所有者に資力がない等のため対策を取らずに放置されていたり、町内に在住していないため周囲へ悪影響を及ぼしていることを理解していないなど、状況を把握していない場合もございます。

特に適切な管理が行われずに放置されている空き家等につきましては、周辺に悪影響を及ぼす恐れがありますので、所有者に対して引き続き適切な管理を要請してまいります。以上です。

[町長（木幡正志）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 高橋議員。

○議員（8番 高橋克英） 何点か再質問させていただきます。

今年度、空き家等実態調査業務委託の予算を計上していましたが、どのようなことをしたのか。また、進捗状況はどうか伺います。

○議長（柏倉恵里子） 増田町民課長。

○町民課長（増田理恵） 今年度終了となります、長万部町空き家等対策計画の次期計画を策定するため、町内全域の空き家の実態調査について業務委託をいたしました。その調査によりまして、空き家等と推定される建物が499軒確認されまして、現在所有者を調査し、アンケートを行っている最中でございます。計画の策定は、来年の3月を予定しております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 高橋議員。

○議員（8番 高橋克英） 所有者不明の空き家はあるかどうか。

○議長（柏倉恵里子） 増田町民課長。

○町民課長（増田理恵） 空き家等と推定される建物のうち、現在のところ所有者が判明できていない建物は31軒ございます。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 高橋議員。

○議員（8番 高橋克英） それでは、今後それをどのように進めていくのかお答えしていただきたい。

○議長（柏倉恵里子） 増田町民課長。

○町民課長（増田理恵） 法務局で登記簿を調べたり、所有者や相続人を確定して対応を要請してまいります。

○議長（柏倉恵里子） 高橋議員。

○議員（8番 高橋克英） 町民から空き家に対する苦情や要望というものはあるかどうか。

○議長（柏倉恵里子） 増田町民課長。

○町民課長（増田理恵） 時々ございます。その都度所有者の方に連絡をして、対応を要請してお

ります。

○議長（柏倉恵里子） 高橋議員。

○議員（8番 高橋克英） これは、町長に答弁していただきたいと思います。商店街・温泉街・ドライブイン街の空き家・空き店舗等については、景観や環境面はもちろんだが、より魅力ある、活気のあるものにするための課題であると思うが、現状をどう把握しているのか。また、対策についてはどのように考えているかお聞きしたい。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変歴史のある難しい質問なんで、ちょっとお答えさせていただきますけども。ドライブイン街ってのは、バイパスができたそのあとにどんどん交通体系が変わっていって衰退をしていったのが今の現状で、それ以後入り込み観光客数の減少もご覧のとおり続いているわけでございまして、今現実に営業している店舗というのは3軒くらいかな。そんなものしかないと思っておりますし。

商店街については今土地区画整理事業でやりましょうってことで進めているなかで、老朽化した70年80年建築後の老朽した建物が長万部町に散在している状況で、これも経営者等が高齢化してくる。新しい町を作るのには今の現状の姿ではまちづくりは不可能だと見てるんだね。土地区画整理事業等が始まって、これが新幹線の開業に合わせて2030年までやろうっていうことで計画してたのが、実はご承知のとおり新幹線の開業が8年10年遅れるって見込みになってきた。だからそれでもやっぱり想定外、今土地区画整理事業はやっぱりそこに加担している住民の方、商店主、たくさんの方々おられるわけだから、それは変更するわけにいかない。変更しないで2030年までにはこの土地区画整理事業は持っていくみたい。ぜひ完成させていきたい、そう思ってるし、やるべきだなと思ってるのも確かです。

そこから新しい商店街が生まれてくるんだろう、そんな気がしますし、温泉街にとっても、だったら今の温泉街の形態どうするんですか？いろいろ何年も前から将来の温泉街の皆さんがどうお考えですかって話を聞いたこともあるし、また、いろんな形の中で、お話を聞きに経営者の皆さんとの中で入っていっても、なかなか答えが見えてない。今でも現状そうです。見えてない。そして将来どうするのって言ったらわからないって。将来営業するのって言ったらそれすら現状の中でわからない。経営者がわからなければ我々自治体として、じゃあそこに絵描くかと。しっかり絵描いていいかって話には当然ならない。土地の所有も全て含めて。

ただ、これから肝心なことはひとつ、温泉の利用の問題なんです。温泉街どうするかというのは、やっぱり温泉水を利用する人が減少していくと入湯する支払いが増えていく。それが温泉街・ホテル経営者の方にしたら経営の内容で維持できるのかいという話に当然なってくるんだよね。これが将来今の温泉街やってる経営者の方にとっては、この温泉のお湯の利用・活用ってのはものすごい負担になってくるだろう。まして今温泉街の給湯器、要するにお湯を溜める施設。これがもう老朽化してきてる。直すのにどうするったら給湯施設新たに作り直して、そしてこっちの活用しながら古いほうの修理しなきゃいけない。こういう実態に今きてる。それを乗り越えるためにはどうするかっていいたらお湯を分湯して、分湯のお湯の湯代を上げなきゃいけない。それで耐えられるかっていいたらなかなか難しくなってきてる。将来的にはそういう問題も大きく抱えながら、長万部温泉としての魅力をどう出すのよということも考えてほしいんだけども、そこはやっぱり個人の経営者たちがあくまでも経営者は個人である、個人の考え方を、そこを剥奪して行政がやれるかったらそうでない。この商店街・ドライブイン街・温泉街の魅力の発信度ってのは、それはぜひ魅

力あるものに作り上げてくのは行政のお手伝いもそうだし、観光協会の手伝いもそうだし、しかるべき組織がみんなでやらなきゃいけない。しかしこれをやるためににはものすごいエネルギー使って、ただあんたがただけやりなさいっていうことではなくて、全体で取り組んで行かなかつたら魅力度つてのが出てこない。だからそこをいつどうつなぎ合わせて魅力度を作っていく。これは肝心な要素だと思ってる。

だから今ご指摘のとおり、こういう一般質問いただいたんで、我々も議会からもこういう意見いただいてますよということを前面に押し出して、その上でお考えくださいよと。将来あなたのためにも温泉街の魅力、商店街の魅力、そしてドライブイン街の今の現状をどう打破するかとも訴えながらやらなきゃいけない。これが基本になってくるかなと。それを超えないと魅力度つてのは私は生まれてこないとそう思ってますので、ぜひご協力をいただければありがたいと思います。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 以上で高橋議員の質問を終わります。

大谷議員。

[議員（4番 大谷敏弥）登壇]

○議員（4番 大谷敏弥） 避難所の暑さ対策は。

ロシア極東カムチャツカ半島沖の巨大地震に伴う津波警報や注意報で、長万部町が指定する避難所や、避難場所の熱中症対策について、温暖化の傾向が年々増している中、避難者の暑さ対策が課題となってきていると思うが、その対応は。

また、北海道新聞のアンケートで、避難所の暑さ対策で、長万部町は今回の地震を受けて送風機、約10台の購入を検討とあるが、その後の進捗状況は。町長の所信を伺います。

[議員（4番 大谷敏弥）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

[町長（木幡正志）登壇]

○町長（木幡正志） 避難所の暑さ対策は。ご答弁申し上げます。

カムチャツカ半島沖で発生した大きな地震は、遠い地域の出来事でありながら、津波情報や防災体制の重要性を改めて認識させる出来事となりました。

また、今年も全国で記録的な高温が続き、本町では観測史上最高気温に並ぶ32.6度を3日記録するなど、熱中症の危険が例年以上に高まった高温の夏に見舞われました。

こうした状況から、避難所の暑さ対策が急務と考え、9月定例会の補正予算に避難所用サーキュレーター購入費用を計上いたしました。

北海道新聞に掲載された「送風機約10台の購入を検討」のその後の進捗状況につきましては、購入時に単価を低く押さえられたことから、避難所用サーキュレーターを17台購入することができ、現在組み立て作業などを行っており、準備が整いしたい避難所へ配備いたします。

なお、このたびの青森県東方沖地震の対応では冬季の対策が必要となり、対応にもその都度様々なニーズが求められ、全てにおいて避難者の方々に満足していただける対応ができるとは限りませんが、10月には、連合町内会から避難に関する意見等をいただいており、暑さ対策に限らず各種要望にも対応しながら、今後も避難所の環境整備に努めてまいります。以上です。

[町長（木幡正志）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 大谷議員。

○議員（4番 大谷敏弥） それでは何点か質問いたします。避難箇所は何箇所でしょうか。

○議長（柏倉恵里子）　吉田危機対策室長。

○危機対策室長（吉田泰博）　避難箇所でありますけども、町内各避難所に置きますサーキュレーター17台、これの配分につきましては、避難所として町が管理しております12か所に各それぞれ1台ずつ配備。残り5台につきましては、緊急対策用といたしまして、役場にて保管を予定しております。以上です。

○議長（柏倉恵里子）　大谷議員。

○議員（4番 大谷敏弥）　次に、国縫の避難所については、国縫振興会館となっていますが、平地なので被災する恐れがあるのかなと思います。また、避難所となっている高速道路の料金所のインターチェンジは、屋外なので避難しても高温の夏、また、冬季の寒さ等のなかの避難所としては、休憩所もなく避難の状態が困難だと思いますが、それに対しての対応をどう考えていますか。お伺いします。

○議長（柏倉恵里子）　木幡町長。

○町長（木幡正志）　NEXCO東室蘭とのお話をいただいたて、当初から平地を避難所にしましょうよという話はしてきたんだけども、ご覧のとおり笹が生えたりなんかでいろいろと年2回くらいは管理用の笹刈りをしなきゃいけない状態にある。

NEXCOさんとは以前話をした経緯があって、あそこを舗装しましょうよという話はNEXCOさんからいただいた。NEXCOさんがやってくれるのかなと思って期待したんだけど、そこはどうかい町のほうで整備してくださいと。

それともうひとつは、NEXCOさんが持ってる資機材、例えばテントでもなんでもNEXCOさん持ってるんだよね。だからそれは販売・供給できますよっていう話をいただいたことは何度もあるんだけども、単価がどうあれこうあれじゃなくて、年間、例えば定期的に訓練に何回使うかとか、様々なことを考えて、やる費用対効果の問題も考えたときに、今は財政的に厳しいよね。ということをNEXCOさんのほうにも話をさせていただいて、できる限り安全・安心な場所にしておいてくださいということはお願いはしてあるんだけど。

今回7月30日、カムチャツカ半島沖の段階で、あそこに60人くらい高台に避難をされた。花岡にある建設現場の方も同時に避難をされた経緯があって、その中で炎天下なんで熱中症になる恐れがあるということで、その花岡の事業所の方が高齢者をピリカのほうまで車で送ってくれたという経緯があるんですよね。その経緯に対しては、我々もこのカムチャツカ半島沖の状況も収まってから事業所にお邪魔をして、お礼の言葉を述べながら、当時また水の供給、お茶のペットボトルの供給もしてくれたりして、ちゃんと国縫の避難所の方を守ってくれたということについては、花岡事業所に行ってお礼の言葉も述べてるし。

やっぱりいつ起きるかわからない、それを建物を建てて頑丈なものにしておくっていう、施設管理の問題ってのは、逆に町中にある休憩所と同じ避難所と同じ役割をしてしまう。建てたら同じ役割を持つ。そうすると管理や維持ってのは、全てその分だけ財政的なものも係ってくるんで、それはやっぱり今後大事なことだし、町民の命を守るということは大切なことだけども、だけど起こりうる存在の問題を検討していくと、ちょっと今の段階では、そこもうちょっと平地を管理しながら、当然長期間に滞在すると思ってもいなかったんだけど、今回冬場になってくるとそうはいかないなということも考えながら、今後室蘭のNEXCOとよく話もし協議しながら、できるだけ環境の整備に努めていきたいと思っております。

ただし、あそこはNEXCOさんが所有しているインターチェンジなもんだから、うちらのほう

でこうしたいああしたいということどこまで通るか、そのあたりは微妙なところなんで、ここで明確に答えを出すことはできないけれども、そういった協議も常時続けながら、そしてあそこにカメラが付いてるんだよね。そのカメラってのは360度方向性が見れるカメラ。だから津波が来てる状況でも、そのカメラが全部NEXCO事業所のほうで見て、押さえられる場所があるってことで一度見に来てくださいってことがあったんで、1回見に行ったことがある。さすがに見事なものだ。金かけたカメラ鮮明に見えるんだよね。例えば津波が国縫の線路超えたとか、そういう状況になつたら事細かに見える状況のカメラ、すばらしいものについて。やっぱりお国の仕事だなと思うくらい立派なものが付いてるし、そういう状況見ながら町のほうにも津波が海岸線に押し寄せたよ、国縫の海岸超えたよということも、情報としては提供できますという話までいただいておりますので、それは甘んじて情報の共有を受けたいなと思ってるし、今後ともやっぱり避難所の活用、平地だから上がっても行きやすい。帰りも帰りやすいんだけども、やっぱり寒さ対策ってのはこれは当然、暑さもそうだけど寒さ対策も当然考えていかなきゃならない状況だなってことは、常に町民の生命・財産を守るということの基本からいくと、まず町民の命を守る。ここが基本になってくると重々考えながら、利用価値を高めていきたいなと思ってますので、どうぞよろしくお願いします。

○議長（柏倉恵里子） 以上で大谷議員の質問を終わります。

辻議員。

[議員（3番 辻紀樹）登壇]

○議員（3番 辻紀樹） 長万部高校の存廃に関する現状と行政の対応についてお伺いいたします。

平成27年第2回定例会において、道教育委員会が公表した公立高校配置計画案に関し、一般質問を行いました。

当時の説明では、八雲高校がセンター校となり、長万部高校は地域キャンパス校に位置づけされること、また、新入生が20人を下回った場合には地域の特色を生かした運営が求められ、直ちに廃校とはならない旨が提示されております。

その後、要綱の一部が改正され新入生が10人を2年連続下回った場合、翌年度より生徒募集を停止し、その後廃校とすると規定されたところであります。

令和7年度の新入生は7名となりましたが、校長先生をはじめ教職員、在校生が一丸となり、学校存続に向けた新たな取組が積極的に進められています。

こうした状況を踏まえ、去る10月28日には道教委高校教育課の担当職員が来町し、高校に関する地域懇談会が開催され、長万部高校は1学年20人未満の状態が続き、再編整備の留保校となってから4年が経過している旨の説明がありました。

以上のことを踏まえ、下記について質問いたします。

- 1、令和8年度の入学希望者の見込みと、今後3年間の推移について。
- 2、長万部高校の存続に向けた、協議会等の組織は設置されているか。
- 3、長万部高校の存廃に関する今後の取組について。

以上、町長の所見をお伺いいたします。

[議員（3番 辻紀樹）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

[教育長（近藤英隆）登壇]

○教育長（近藤英隆） 教育行政に対する関係だと私は思いますので、私のほうから答弁させていただきます。

長万部高校の存廃に関わる現状と行政の対応について。

令和8年度の入学希望者の見込みにつきましては、長万部中学校3年生の進路希望状況では、中学校からの報告によると長万部高等学校を希望する入学予定者は10名を上回っており、2年連続10名を下回ることは避けられる見込みとなっております。また、今後3年間の推移でありますが、現在の中学校2年生が28名、中学校1年生が30名、小学校6年生が29名であります。

次に、協議会等の組織の設置につきましては、現在、高校において地域連携及び学校存続に向けた「学校運営協議会」や「高校魅力創出委員会」が設置されており、地元生徒に選ばれる魅力ある高校づくりや情報発信など存続に向けた活動を行っており、生徒確保のための効果的な活動を行っております。

最後に、今後の取り組みについてであります、町としましては、今現在行われております制服購入費補助や給食無償化など長万部高校に対する各種支援策を継続していくことはもちろんのこと、役場職員採用推薦枠などの施策を広く発信していきたいと考えております。また、長万部高校は、大学で17校96名、短大で6校9名、専門学校で55校125名という数多くの指定校推薦枠を持っており、それらの情報を発信することによって、長万部高校の持つ魅力を高めていきたいと考えております。

今後の長万部町の児童生徒のためにも、長万部高校の存続のため小中高との連携を強化し、より効果的な施策の検討を行ってまいります。

[教育長（近藤英隆）自席へ]

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それでは、何点か再質問をさせていただきます。

まず1点目の件なんですが、先日12月広報で、過去何年かの入学者の一覧表が出ておりました。その中で長万部中学校からの進学率が、例年ですと大体35%くらい。令和7年度、極端に15.8%と約半分の進学率に落ちています。その要因というのにはどのような要因が考えられておりますか。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） お答えいたします。主な要因につきましては、当初10人を超える進学予定者でしたが、部活動や推薦などで他校を希望したことや、JRで通学可能な学校を選択したことにより、10人を割ってしまいました。私自身非常に危機感を感じたところであります。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それで今後30人程度の在校生徒がいるということですので、この進学率が前年度、過去にさかのぼって35%くらいあれば、おそらく10人下回ることはないと思うんですね。今大変高校生、校長先生を筆頭に、PR活動が盛んにされてますので、来年度は進学率が上がるというふうに考えていいんじゃないかなと思っていますが、教育委員会としてそのバックアップ体制というものは考えておられますでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） お答えいたします。長万部高校のほうでは、学校運営協議会を令和5年度に設置しております。協議会委員15名、オブザーバー3名、これには私、小学校長、中学校長も含めております。それと高校職員4人の合わせて22名の委員で構成されております。委員会は探求部会、地域連携部会、学力向上部会の3部会で構成され、学校PRや学校存続をテーマに全体協議を実施しております。委員会につきましては、本年11月18日に高校魅力創出委員会を設置し

まして高校職員4名、町職員2名、教育委員会1名の合わせて7名の委員により学校をPRするための動画などを作成し、公式ホームページやY o u T u b eでの情報発信を企画する予定であります。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） 今のご答弁は2番のほうにも入ってるかと思うんですが、その中で教育委員会も当然参加されていると思うんですが、どのようなお話が出てるのか。部会ごとっていうことなんんですけど。参加されている、聞いている内容、どのようなものがあるのかご説明いただけませんか。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） より効果的な施策の検討を行っているところであります。高校と中学校の部活動の連携につきまして話し合われております。各校が有する部活動の練習に両校生徒が参加できる体制づくりを整えて、両校生徒が望む活動の充実や交流を図っていくことで、生徒同士の連携を深めております。

長万部高校入学後に部活動での大会、高体連などに出場するための大会補助金などについて、町側と相談しながら補助していかなければと思っております。両校の児童生徒と、東京理科大生を含めた交流や、教職員同士の交流も大切なことだと思っております。今後も引き続き小中高の連携を強化して、小学生や中学生を持つ保護者への学校説明会を実施し、先に行われた地域懇談会でのご意見を参考にしながら、町民の協力を得ながら、高校生の確保と存続に向けて今後も取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） すいません、今質問したのは、その委員会の中で、構成で当然学校の先生だとか地域の人たちとか入ってるとは思うんです。その中でどういう、存続に向けての考え方とかそういうものの話があったのかということを聞いています。すいませんよろしくお願ひします。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） お答えいたします。大変失礼しました。この中で、少子化、人口減少による生徒数の減少による課題と、または部活動の様々な学校生活の魅力不足について、あとは人間関係や環境への課題・意識等についていろいろな分野で、3部会に分かれて対応しております。の中でも学校存続に向けて打ち合わせが大事だということで、必ず全体会議を開きまして、その中で今後どうするかということを委員で協議しております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それで先ほど説明があったのが、3点目のお話の内容だと理解しております。それで今後、この人数でいくと留保校って言うんですかね、先ほど28日の会議の中で出た、それが4年間続いているということなんですが、さっき説明したとおり、10人切ると2年間で、20人を切ると留保校で4年だという話なんですが、それが説明会の中でお聞きしたんですが、何年とは言えないというお話がありました。担当のほうから。それについて教育委員会としてはどのように、何年間ということは言えないでしょうけど、その部分というのはどうお考えですかね。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） お答えいたします。議員おっしゃるとおり今20人を切ってから4年目を迎えております。今度切れますと5年目になるので、今後はどういうふうになるかわかりませんよとは道教委から言われておりますが、今年度進路相談を先生方一生懸命やっておりますので、20

人を目指して今頑張っているところであります。まもなく長万部中学校から何名という数字が出てくると思われますので、この数字に20名を超えてもらえば留保校が一時リセットになりますので、また一から出直せるんですけども、なんとか20名を目指して努力していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） 今長万部町では、新幹線の関係で、新幹線の設備を点検する車両基地ができると確定して、今前に進んでる。それから今一生懸命町長はじめ地域の方々が新幹線車両型の基地を誘致したいということで頑張ってると思います。そうすると残念ながら30年開業が15年くらい延びるという話もございますので、その間なかなか生徒が増えるということはないと思うんですね。やっぱり全体的に町民が少なくなりますから。

ただし新幹線のそういう施設関係でいくと、労働人口が増えるということは、若い人が増えるというとらえ方でいいと思うんですよね。そのときに高校がなくなる、学校がなくなるということは、昔から学校がなくなる、病院がなくなると、その地域は疲弊していくというふうに言われて、OBの方からもそう言われています。そのことは学校というのは、小中は義務教育ですから、なくなるということはまずない。そう言われている学校というのはやっぱり高校、それから大学がその地域になくなると疲弊してるということが言われています。

ですから今後この間一生懸命に生徒を、20人を割る、10人を割らないように、いろんな検討はされている、協力はされていくと思いますが、そこで、今されている高校生の校長先生を筆頭にして一生懸命やっている、それは成果は出てくると私は考えています。そのためにはやはり教育委員会の絶大なる支援と、予算的にも出てきますので、これは町の財政のほうとの兼ね合いも出てきますけども、長万部はこの30年のまちづくり総合計画の中でも学校は残していくんだと。それから町史の中でも学校を残していく、学び舎を残していくんだというのがありますので、今後教育行政の長としての、教育委員会の長として教育長の考え方方が大事になってくると思いますので、それをもう一度決意を、決意というか進め方を表していただきたいなど。それで質問を終わりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（柏倉恵里子） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） お答えいたします。今でも中学生、高校生の交流を深めております。それで授業におきましても中学生の先生が高校に行ったり、高校の先生が中学校に来たりして教えております。

これからは小学生、また小学校の教員も含めながら、本当に小中高連携しながら、そして先ほど申しましたけども、保護者にも学校説明会を開催しながら、どうにか20名を超える人数で推移していくべきいいなと考えておりますので、我々も危機感を持ちながら、これからも取り組んでいきますので、皆様方のお力も必要になるかもわかりません。そのときはどうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 以上で辻議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。

これにて一般質問を終わります。

○議長（柏倉恵里子）　日程第2、発議第1号国土強靭化に資する社会资本整備等に関する意見書の件を議題といたします。本案については、会議規則第39条第3項及び議会の運営に関する基準65の規定により、提出者の説明を省略し、合わせて質疑も省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案については、提出者の説明を省略し、合わせて質疑も省略することに決定いたしました。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり可決されました。

◎所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について

○議長（柏倉恵里子）　日程第3、所管事務等の調査及び閉会中の継続調査についての件を議題といたします。お手元に配付したとおり、各常任委員長及び議会運営委員長から特定の案件について閉会中に委員会活動を行いたいとの申し出がありました。

お諮りいたします。各常任委員長及び議会運営委員長から申し出のとおり、閉会中の活動を承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって各常任委員長及び議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の活動を承認することに決定いたしました。

以上をもって本定例会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

◎閉会宣言

○議長（柏倉恵里子）　これにて令和7年第4回長万部町議会定例会を閉会いたします。どうもご苦労様でした。

10時44分　閉会
